



第1回 新人助産師研修

於：山口県看護研修会館

令和4年7月30日（土）新人助産師研修会開講式と第1回研修会が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況を見ながら公開講座も開催されます。当日は新人助産師16名と助産師職能委員4名の他7名の参加がありました。



新生児のフィジカルアセスメント

講師 小児科医 松隈知恵医師（山口大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター）



午前の松隈医師の講義では、新生児の様々な疾患について症状・原因治療等の説明があり、生じてくるであろうリスクを予測しながら備えるということの大切さを改めて知ることができました。又新生児の特殊性をふまえた全身観察のポイントについても学ぶことができ、母親に対してどのように説明できるか知ることができました。



新人助産師、いきいき、楽しく働こう

講師 杉浦崇仁公認心理師・臨床心理士（山口県公認心理師協会）

午後からの講義では、就職後3か月経過した新人助産師たちに気持ちの変化について話され、働く目的を明確に持つことが働き甲斐に繋がるため、助産師を目指した動機を時折思い出し原点に返ることが大切だと話されました。リアリティーショックや処理能力の限界、人間関係など様々な困りごとが生じる中でどのように考え、対処できるのか考えるきっかけになったのではないのでしょうか。



講義の後半ではそれぞれ4チームに分かれてミニゲームを行い、それまで緊張の面持ちだった新人助産師たちが笑顔でゲームに参加し、その後の会話のきっかけになっている様子でした。

講義後、自己紹介を行い、助産師を目指した動機や、今後の目標、仲間作りへの思いなど語りました。これから山口県で働く新人助産師として仲間同士、共に学び、共に高め合い県内の周産期医療を支えていってほしいと思います。

助産師職能委員会では、今年度も全6回の新人助産師研修を予定しています。継続教育、臨床助産実践能力向上目的のため、また同期の助産師間での情報交換やネットワーク構築の場として支援を行います。

今後ともよろしくお願いたします。



（山口県看護協会 助産師職能委員会）

第2回 新人助産師研修

於：山口県看護協会

「胎児心拍数モニタリングと薬剤投与の基礎知識」

講師：山口県立医療センター

総合周産期母子医療センター長

佐世 正勝 医師



令和4年8月20日(土)、第2回新人助産師研修が開催されました。CLOCMiP®レベルⅢ承認研修も兼ねて実施し、新人助産師15名を含めた25名の助産師が参加しました。

「胎児心拍数図波形の定義」「胎児心拍数図波形の生理的背景」「胎児機能不全の診断と対応」「分娩監視装置の実際」「薬剤投与の基礎知識」という5つの項目について講義していただきました。臨床での事例や実際のCTG波形図を用いながら、胎児心拍波形図の判読、その根拠や注意点について説明していただきました。また、分娩誘発や促進で扱う子宮収縮薬の使用法や留意点について、ガイドラインにそって説明していただき、改めて基礎知識を得ることができ、新しい頸管熟化剤は興味深いものでした。助産師は日々の業務のなかで分娩監視装置を使用し、胎児の状況を把握し異常の早期発見に努める必要があります。そのためには、正確にモニタリングできるスキルと胎児心拍波形図を判読する知識を習得しなければなりません。最後に紹介された、染色体異常の胎児の心拍波形図が、私たち助産師のために教えてくれた命の意味だと心に残りました。

今日の学びを臨床の場で活かし、母子ともに安全なお産ができるようお手伝いできればと思います。



次回の新人助産師研修は、10月29日(土)「母乳哺育支援」の予定です。

山口県看護協会助産師職能委員会



第3回 新人助産師研修

於：山口県看護研修会館

「母乳哺育支援」

講師：山口県助産師会 会長 桶谷式認定助産師

藤田 房子先生



令和4年10月29日(土)、第3回新人助産師研修が開催されました。新人助産師16名が参加し、今年度も藤田房子先生に「母乳哺育支援」について講義をして頂きました。

午前中は乳房の解剖生理や母乳の栄養学、産褥早期に起こりやすい乳房トラブルと母乳育児支援について詳しくお話して頂きました。産後のお母さんが不安なく母乳哺育ができるような声かけや、指導のポイントなど実践に活かせる内容でした。午後からは

基本的な母乳の飲ませ方・やさしい搾乳の方法について講義していただきました。搾乳の演習ではゆで卵を用いて搾乳時の力加減を体験し、乳房の模型で手指を置く位置や、軽く圧をかけローリングして搾るという搾乳の手技を学ぶことができました。助産師は母乳哺育の支援者として、とても大きな役割を担っています。産後のお母さん、赤ちゃんがスムーズに母乳哺育をすすめることができ、育児が楽しめるように専門的知識や技術を習得していきたいと思います。



次回の新人助産師研修は12月17日(土)9:30～「緊急時の対応」CLOCMIP®レベルⅢ認証研修

13:30～ 新人助産師対象 緊急時対応の実際の予定です。



第4回 新人助産師研修会

於：山口県看護研修会館



「緊急時対応」 CLoCMiP レベルⅢ認証研修 講師：山口大学医学部附属病院 前川 亮 氏

令和 4 年 12 月 17 日（土）第 4 回新人助産師研修会を開催し、新人助産師 15 名、一般参加 14 名、委員 3 名が参加しました。母体急変時の対応について、初期対応の原則の中では、全身管理と産科的管理を同時進行で行うこと、常にバイタルサインを意識し A B C を評価しながら優先順位を考慮することの重要性を学びました。急変の感知に必要な知識を学習後、心肺蘇生時に必要な手技（バッグバルブマスク、A E D、胸骨圧迫）を実践し、産科で遭遇する急変時の症例（羊水塞栓、弛緩出血、肺塞栓）でデモンストレーションを行いました。参加者より「産科的処置に目が向いてしまうが、全身状態の観察が大切だと学んだ」「繰り返し学習しないと、いざという時に動けない内容なので公開講座で参加できて良かった」などの感想がありました。



「緊急時対応の実践」〔新人助産師対象〕 講師：山口大学医学部附属病院 前川 亮 氏

午前の公開講座に引き続き、午後より新人助産師のみ対象の実践編で新人助産師 15 名と委員 2 名が参加しました。



産科で遭遇する急変時の対応を症例（アナフィラキシーショック、意識障害：痙攣、心肺停止：羊水塞栓）ごとに 3 グループに分かれて実践しました。「事例を通して学習・実践することでより緊張した空気感を疑似的に感じた。怖さがより強くなったが、いつ起こるか分からないからこそ臨床での急変の遭遇に備えて自分がやるという意識をもち定期的に学習し実践できるようにしていきたい」などの感想がありました。

次回の第 5 回新人助産師研修会は

令和 5 年 1 月 14 日（土）「臨床病態生理の基本」「妊娠と糖尿病」を予定しております。



山口県看護協会助産師職能委員会